

高松次郎

1970年代の立体を中心に

2000年5月16日(火) - 7月16日(日)

開館時間：午前10時—午後6時（入場は午後5時30分まで）毎週金曜日は午後8時まで（入場は午後7時30分まで）

休館日：月曜日

入場料：一般800円(640円) 大学・高校生560円(450円) 中・小学生240円(200円)

() 内は前売・団体30名以上 入場料は消費税込み

主催：千葉市美術館

ハローダイヤル：043-227-8600

 千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

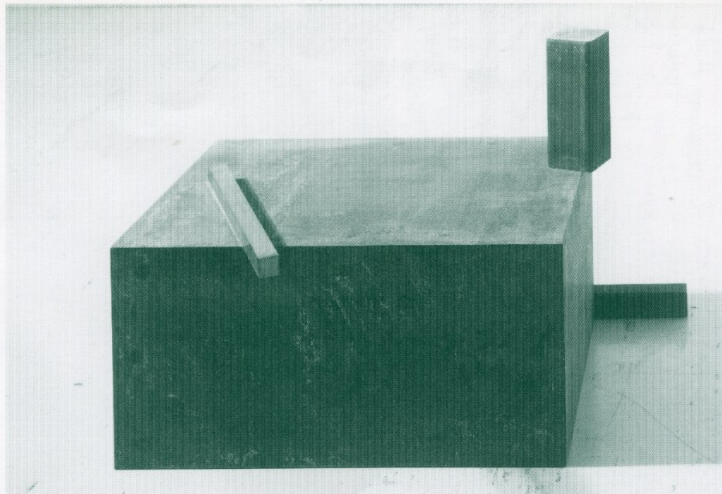


高松次郎 (1936-98) は日本の戦後美術における重要な作家のひとりです。

これまで、高松の作品について国・公立美術館が開催した個展では1960年代の「影」や「遠近法」のシリーズ、あるいは80年代以降の絵画を中心に紹介が行われていました。今回は、これまで顧みられることの少なかった70年代の立体作品である「複合体」シリーズを中心に、関連作品など約60点によって構成します。

「複合体」シリーズは他の作品群とは異なり、制作を重ねる過程で作品を支える概念にたびたび問題が起り、作者はその問題の解決のためにも1970年代全般にわたって同シリーズと向き合うことになりました。それは、60年代後半からわか国の美術状況のなかで模索されはじめていたあたらしい立体造形に対して、高松がどのようにアプローチしようとしていたかを伝えるものとなっています。

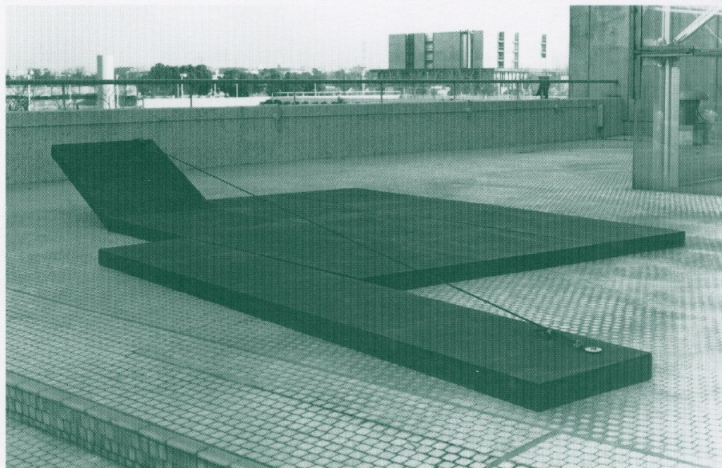
本展は、高松次郎という作家のあゆみについて考えるとともに、1970年代以降のわか国における立体造形の動向を検証するものです。



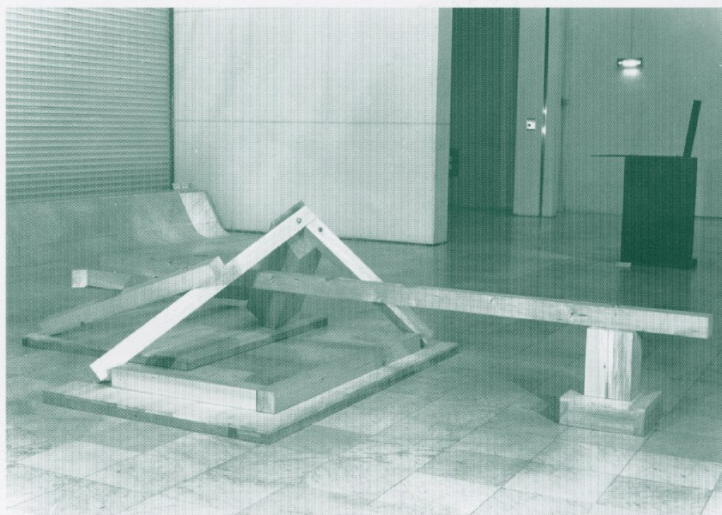
複合体 #746(1976)



複合体 (1972/80)



RUSTY GROUND “錆びた大地” (1977)



柱と空間 #964(1980:手前) 複合体 #743(1976:奥)

作品写真提供:東京画廊写真部

鼎談「高松次郎を発見する」

出席者: 中原佑介(美術評論家・京都精華大学教授)
 峯村敏明(美術評論家・多摩美術大学教授)
 建畠 哲(美術評論家・多摩美術大学教授)

日時: 6月24日(土) 午後2時より
 会場: 千葉市美術館・11階講堂
 ※先着順に150名まで受付

次回予告

20世紀のベルギー絵画 7月22日(土)-8月27日(日)

「友の会」ご入会の案内

企画展・所蔵作品展の入場はフリー、図書の割引などの特典がございます。ぜひご利用ください。
 入会は、美術館受付に備えてある「入会申込書」でお申し込みください(休館日・年末年始はお申し込みできません)。
 くわしくは、美術館(tel.043-221-2311)までお問い合わせください。

千葉市美術館

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
 Telephone : 043-221-2311

JR東日本千葉駅利用

- 東口より徒歩約15分
- 京成バス大学病院行(のりば⑦)「大和橋」下車徒歩2分
- 京成バス矢作台市営住宅・川戸行(のりば⑦)または小湊バス八幡宿駅行(のりば④)「広小路」下車徒歩1分
- 千葉都市モノレール県庁前行「葭川公園」下車徒歩5分
- 無料巡回シャトルバス・チーバス(のりば⑩)「中央区役所・美術館前」下車 11:00-18:00の毎時05分と35分に発車(水曜日運休)

京成電鉄千葉中央駅利用

- 東口より徒歩約10分

※来館者用駐車場は少ないので、自家用車での来館はご遠慮ください。

